

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

[めざす学校像]	
1 「 <u>質実剛健</u> 」にして「 <u>文武両道</u> 」に励む生徒を育てる学校	質実剛健：夢実現のため躊躇せず挑戦しへこたれず諦めず地道に努力する気質 文武両道：勉強にも部活動にも行事にも真剣に全力で取り組むこと 骨太の人格：基本がしっかりとしていて決してぶれない心と体
2 母校への誇りと地域への愛を持ち続ける生徒を育てる学校	
3 「 <u>骨太の人格</u> 」を備え 21 世紀を支える人材をつくる学校	
[生徒に育みたい力]	
○ 夢と志を語る力（社会に貢献する自分を想像する力／目標を具体的に語る力）	夢：将来実現させたいと思い描いている願い 志：心に思い定めたある方向をめざす気持ち
○ 努力し続ける力（全力で学び続ける力／貪欲に挑戦し続ける力）	
○ 人権を尊重し人と繋がる力（仲間をつくる力／仲間を支える力／仲間を率いる力）	
[教職員に望む力]	
○ チームの一員として自らの役割を自覚し「生徒に育みたい力」を身につけさせる力（豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性）	

2 中期的目標

1 「夢と志を語る力」の育成	
(1) 確かな学力の定着と系統的な進路指導（なりたい自分から逆算する指導／大学入試改革への対応）	⇒ 進路指導満足度を R8 年度に 90%以上の維持 (R3:84.7% R4:86.9% R5:90.6%)
(2) 同窓会の人的資源活用のさらなる推進	
(3) 大教大教職コンソーシアム事業への参加促進／有識者による講演の充実	
(4) アドバンス教育コースの充実	
(5) 進路実現満足度の向上	⇒ 満足度 80%以上を R8 年度まで維持／その結果、国公立大現役進学者数を R8 年度に 70 人（25%） (R3:55 人 R4:64 人 R5: 83 人)
2 「努力し続ける力」の育成	
(1) 高い部活動入部率の維持	⇒ R8 年度まで 92%以上の維持 (R3:94.4% R4:94.5% R5:96.8%)
(2) 課外学習時間の増加	⇒ R8 年度には 2 時間 10 分／人・日 (R3:1 時間 54 分 R4:1 時間 43 分 R5:1 時間 33 分)
3 「人権を尊重し人と繋がる力」の育成	
(1) 学校教育自己診断「生徒会行事への積極的取組姿勢」肯定率	⇒ R8 年度まで 92%以上の維持 (R3:96.1% R4:96.4% R5:98.2%)
(2) 高い部活動入部率の維持	⇒ R8 年度まで 92%以上の維持 (R3:94.4% R4:94.5% R5:96.8%)
(3) 地域、学校園等関係機関と連携した活動の充実	
(4) 人権教育・教育相談活動の充実といじめ防止	
4 「チーム八尾高」を支える教員力の向上	
(1) 学校経営計画中期的目標を踏まえた目標設定（全教職員）と高い同僚性を基盤とした業務の推進	
(2) 経験年数の少ない教員を育てる OJT の充実と教職員間のコミュニケーションのさらなる活性化	
(3) 授業力向上のための取組みの充実による授業アンケート結果平均の向上	⇒ R8 年度には 3.5 (R3:3.42 R4:3.40 R5:3.41)
(4) 「学校における働き方改革の取組み」による超過勤務時間縮減と生徒に向き合う時間の拡充	
(5) 大学入学者選抜改革に即応できる教員力の向上	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
(生徒対象) ○肯定率 80%以上は、全 38 項目中 32 項目で昨年度より 4 項目増で、うち 90%以上は 18 項目で昨年度より 4 項目増という結果であった。全般的には、昨年度以上に「高校生活に満足している」結果が出ている。今後ともさらにそれぞれの取組みを充実させていく。 ○全 38 項目中 50%以下の項目は 1 項目で、「八尾高校 HP や各種のブログ等をよく見る」について、昨年同様 37%（昨年度 35%）で肯定率が低い。学習支援クラウドサービスで機能を代替している影響が依然でていると思われる。 ○令和 4 度より項目に入った「生徒 1 人 1 台を効果的活用している」は昨年度より 9%増の 86%である。今後ともこの項目を向上させる取組みを進めていく。 (保護者対象) ○肯定率 80%以上は、全 36 項目中 29 項目で昨年度より 4 項目増で、うち 90%以上は 18 項目で昨年度より 10 項目増という結果であった。全般的には、昨年度以上に、「本校の教育方針及び本校の様々な取組み」が保護者から支持されていることが伺える。今後さらにそれぞれの取組みを充実させていく。 ○全 36 項目中 50%以下の項目は 0 であったが、「HP 等をよくみる」は、依然低く 59%であった。今後、HP 等どのように発信していくかが課題である。	第 1 回（令和 6 年 5 月 20 日） ・多くの生徒は予習をする経験がないので、予習をどのようにしたらいいかわからないと感じている。その点を踏まえて指導していく必要がある。 ・過去数年間の数値だけをもって進学実績を評価することは難しいが、長期的なスパンで捉えると進学実績は確実に良くなっている。それを踏まえて、生徒ががんばっている姿を交えながら学校説明会で説明してみてはどうか？ ・アドバンス教育コースの発足から 10 年以上経ち、当時と比べて大きく社会・生徒が変わった。これに対応するため、向こう 10 年を見据えて本コースの内容を刷新し、充実させていく必要がある。 ・本校の生徒は明るく挨拶をよくしてくれる。だからこそその良さを知ってもらうため、オープンスクールなどで生徒に説明させてみてはどうか？ ・教科横断的な学びや情報分析能力の育成にあたって学校側のサポートがあると、保護者としては安心です。 第 2 回（令和 6 年 10 月 21 日） 【アドバンス教育コース改編について】 ・アドバンス教育コースの改編につながる探求アドバンスの取組みを積極的に推進するためには、期限を明確に設定することが重要である。また、探求アドバンスは生徒の自主性に任せた探究活動であり、学校の魅力向上につながるので、学校説明会などで広く周知してみてはどうか？ ・保護者から一定のニーズがある大阪教育大学の受験機会については、コース改編後も維持することを検討したほうがよいかもしれない。 ・新たな取組みを積極的に進める姿勢そのものが、学校の魅力を高める。

（教職員対象） ○肯定率 80%以上は、全 48 項目中 20 項目で昨年度と同じであり、うち 90%以上は、8項目で昨年度より3項目減の結果であった。 ○50%以下の項目は、6項目（昨年度4項目）である。その項目は、「授業・部活動・行事・HR 等のバランスがよい」（48%）、「創意工夫を生かした総合的な探求の時間を実施している」（43%）、「各組織間の連携が円滑であり、有機的に機能している」（43%）、「各種会議が教員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」（42%）、「施設整備がよく整備されている」（45%）、「施設・整備の拡充は、長期的な視野に立って計画されている」（40%）である。これらの課題に対して、来年度しっかりと取り組んでいく必要がある。	【授業アンケート結果について】 ・授業満足度はかなり高い水準にあるため、広報を通じてアピールしてみてもどうか？ ・現在、中学生向けに部活動体験を実施しているが、同日に授業体験も実施してみてもどうか？ 【学校説明会について】 ・硬式野球部や吹奏楽部、海外スタディーツアーに関する相談が多く寄せられた。来年度は、これらの経験があるお子さんを持つ PTA の方々を運営に加えたいと考えている。 ・女子のブラウスに対する評価があまり良くないことが指摘されている。公立高校の強みである「部活動と勉強の両立ができる自由度」は生徒にとって大きなメリット。 第3回（令和7年2月 10 日） 【令和6年度学校評価】 ・学校運営において、教職員の意見が十分に反映されていない現状を受け、首席が推進している「職場環境改善プロジェクト」の成功をめざす。 ・課外学習時間が昨年度と比べて 30 分以上増加した要因として、2つ考えられる。1つは、質問内容を「自宅学習時間」から「課外学習時間」に変更したことで答えやすくなったこと。2つめは、1 年生の進路担当が考査前に学習時間調査や学習計画の作成を実施したことで、生徒の学習意識が向上したこと。 ・本校の入部率が非常に高いことは、生徒主体の活動が活発であり、「文武両道」をめざす姿勢の表れであると考えられる。特に、多くの生徒が引退まで部活動を継続している点は、本校の強みである。 【令和6年度授業アンケート結果】 ・生徒は「紙と鉛筆」を使った学習習慣に慣れているため、デジタルプリントに対して違和感を抱くことが多い。また、操作時間が増えると視力の低下などにつながる恐れもある。一方で、デジタルツールの活用自体は否定されるものではなく、タブレット端末などを用いた PC スキルの習得は不可欠である。今後はアナログとデジタルをうまく組み合わせて運用していく必要があるのではないか。 【令和 7 年度学校経営計画】 ・学校経営計画の中期的目標について承認を得た。 ・「めざす学校像」や「求める生徒像」を改めて確認することで、本校の入試問題の難易度が適切であることを再認識した。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R5年度値]	自己評価
1 「夢と志を語る力」の育成	(1) 系統的な進路指導	(1) 教員の進路指導力の向上	(1) 学校教育自己診断（生徒）の「進路指導満足度」を 85%以上維持 [90.6%] 国公立大現役合格者数 65 人(23.6%) [83 人 30.3%] 進路指導力向上研修4回 [4回]	90.1%（○） 3月末に判明
	(2) アドバンス教育コースの充実と府立高校教職コンソーシアム事業への参加者数拡充	(2) 将来構想検討委員会の「アドバンス教育コースの充実 PT」により、昨年度の提言を受け、令和7年度実施に向けて具体化する。府立高校教職コンソーシアム事業に参加することのメリットについて1、2年生全員に周知徹底	(2) 新「アドバンス教育コース」の具体化 府立高校教職コンソーシアム事業参加生徒数を 45 人以上 [52 人]	4回（○） 新1年生（80 期生）からのカリキュラムに「探究アドバンス」入れる 22 人（△）
	(3) 進路実現満足度の向上	(3) 講習の充実と教員の進路指導力向上	(3) 進路実現満足度 80%以上の維持 [83.3%]	2月の卒業アンケートの集計により判明
2 「努力し続ける力」の育成	(1) 高い部活動入部率の維持	(1) 部活動体験 Week の実施／学校説明会における部員の活用	(1) 入部率 94%以上の維持 [96.8%]	92.5%（△）
	(2) 課外学習時間の増加	(2) 「八尾高版基礎学力調査（3年間の進路指導計画）」に沿った進路指導で学習意欲の向上を図る	(2) 課外学習時間平均2時間以上 [1 時間 33 分]	2時間 11 分（○）

府立八尾高等学校

3 「人権を尊重し人と繋がる力」の育成	(1) 主要学校行事満足度の向上 (2) 高い部活動入部率の維持 (3) 地域、学校園等関係機関と連携した活動の充実 (4) 人権教育・教育相談活動の充実といじめ防止対策の充実	(1) 生徒主体の主要学校行事（文化祭・体育祭等）企画・運営をより一層推進 (2) 2(1)に同じ (3) 地域や近隣学校園との連携促進 (4) 当事者を講師とした講演会等を通じた人権教育の充実／教育相談係会の機能強化（個別の支援計画の作成主体として学年と連携）／いじめ防止委員会の定例開催と迅速正確な事象対応	(1) 学校教育自己診断（生徒）の「生徒会行事積極的取組姿勢」肯定率 95%以上を維持 [98.2%] (2) 2(1)に同じ (3) 地域、学校園等関係機関との連携事業実施回数 30 回以上を維持 [47 回] (4) 学校教育自己診断（生徒）「人権教育肯定率」85%以上維持[79.1%]／学校教育自己診断（生徒）「いじめ対策満足度」85%以上の維持[91.6%]	99.0%（○） 92.5%（△） 31 回（○） 87.8%（◎） 94.7%（○）
4 「チーム八尾高」を支える教員力の向上	(1) 同僚性の高い教職員集団の形成 (2) 授業力向上のための取組みの充実 (3) 学校における働き方改革の取組み (4) 同窓会や報道機関と連携した戦略的広報活動の展開	(1) 「<u>将来構想検討委員会</u>」による本校の課題（<u>アドバンス教育コースの充実、部活動と学習時間のバランス、教職員の交流の場の構築、前・後期制のメリットの検証等</u>）に取り組む <u>教頭・首席・各分掌における仕事の見える化と仕事量の調整及び人材の育成</u> (2) 年 2 回の授業見学及び公開授業の実施 授業力向上研修（工夫のある授業の紹介、<u>タブレット端末活用等研修含む</u>） (3) 学校部活動方針（休養日等）の遵守及び全校一斉退庁日を遵守し、教職員の長時間勤務を縮減する。 (4) <u>ホームページ等を活用した情報発信</u>と JR 八尾駅経由で通学する生徒の取り込み／卒業生や保護者の協力を得た学校広報活動の展開	(1) 学校教育自己診断（教職員）の「学校運営への教員の意見反映」肯定率 80%以上[54.5%] 学校教育自己診断（教職員）の「校長の考え方明示」肯定率 90%維持 [87.3%] 学校教育自己診断（教職員）の「校長のリーダーシップ発揮」肯定率 80%以上[76.4%] (2) 授業見学及び公開授業 年 2 回 [2 回] 授業力向上研修（対面での研修）1 回以上 [1 回] 授業アンケート結果平均の向上 [3.41] (3) 全校一斉退庁日の実施割合 95%めざす [91%] 超過勤務時間を前年度比 5 %縮減 年間時間外在校時間 720 時間以上教職員の半減めざす [10 人] (4) 志願倍率 1.25 倍以上 [1.08]	53.3%（△） 76.7%（△） 60.0%（△） 授業見学：2 回（○） 公開授業：1 回（△） 0 回（△） 3.43（○） 91.0%（△） 4.2%増（△） 14 人（△） 0.99 （△）